

表 題 QnACPUとAnUCPUが混在するMELSECNET/10ネットワークシステムでの注意事項

適用機種 A2UCPU(S1), A2USCPU(S1), A3UCPU, A4UCPU

三菱汎用シーケンサMELSEC-A, MELSEC-QnAシリーズに格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

QnACPUとAnUCPUが混在するMELSECNET/10ネットワークシステムにおいて、QnACPUから他局のAnUCPUに対して実行できないトランジェント伝送を実行すると、AnUCPUが自己診断機能により演算停止することがあります。下記に示すトランジェント伝送をAnUCPUに対して絶対実行しないように注意してください。

記

1. 実行できないトランジェント伝送とAnUCPUで発生するエラー

(1) 実行できないトランジェント伝送

- ① GPPQ
 - ├ リモート操作 (リモートRUN, STOP, PAUSE, RESETなど)
 - ├ 時計設定
 - └ オンラインモードのデバイステスト

② リンク専用命令 (SEND, READ, SREAD, WRITE, SWRITE, REQ)

(2) AnUCPUで発生するエラー

AnUCPUは“MAIN CPU DOWN”または“WDT ERROR”になり、演算を停止することがあります。
ただし、AnACPUおよびAnNCPUは、上記1-(1)のトランジェント伝送を実行されても、演算が停止することはありません。

2. 対策

(1) AnUCPUでサポートされていないトランジェント伝送 (上記1-(1)) は、AnUCPUに対して絶対に実行しないでください。

(2) 同じネットワーク内の全局に対してトランジェント伝送したい場合は、グループ指定によりQnACPUのみに実行するようにしてください。
たとえば、下記のシステムにおいて、QnACPUをグループNo.1に設定することにより、QnACPUのみにトランジェント伝送を実行できます。

